

	<p>学校だより 発行日 令和7年1月8日(水)</p> <p>美里町立小牛田小学校</p> <p>電話 0229-32-2319 FAX 0229-32-2321 小牛田小学校HP http://kogota-es.misato-ed.jp/</p>
<p>小牛田小学校は、校木「アカシア」にちなみ、折り句で目指す児童像を設定しています。 ア…明るい子ども カ…賢い子ども シ…親切な子ども ア…あきらめない子ども</p>	

新年おめでとうございます。

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご支援とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。令和6年は、運動会や学習発表会、校外学習や修学旅行など、たくさんの行事や活動の中で、子どもたちの明るい笑顔や活躍する姿を見ることができましたこと、大変うれしく思っております。

長く続いたコロナ対策の反動ではないでしょうが、今年もインフルエンザの流行が心配されています。また、大きく報道されてはいませんが新型コロナウイルス感染症も終息したわけではありません。その他の感染症と合わせて、学校でも対策や子供たちへの指導を継続して参りますので、ご家庭でもお声掛けください。

さて令和7年は、十干では乙、十二支では巳にあたる乙巳(きのとみ)の年となります。「乙」は十干では二番目であり、困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表しています。「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を意味します。脱皮し強く成長する蛇は、その生命力から「不老長寿」を象徴する動物、または神の使いとして信仰されてきました。この2つの組み合わせである乙巳には、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表しているといえそうです。ちなみにこれまでの乙巳の年を調べてみると、645年の大化の改新、1185年の壇ノ浦の戦い(最近はこの年を鎌倉幕府の成立とする学説が有力)、1905年の日露戦争後のポーツマス条約締結など、小学校の社会科でも学ぶ歴史上の大きな出来事が起こっています。いずれもそれまでの混乱が鎮まり安定に向かう契機となるようなものです(余談ですが、私も乙巳の生まれです)。物価の急騰や闇バイトの問題など何かと不安をかき立てられる話題が多い最近の日本ですが、努力が実を結び、安定した社会に向かっていくことを新たな年の始まりに強く願っています。

学校生活はこれから、年度のまとめの時期を迎えます。それぞれの学年毎に必要な力がどの程度育っているか、次年度に向けてこれからどんな力を育てなければならないのか、評価をしながら補ったり更に高めたりしてまいります。また、子どもたちにも、「アカシアっ子」や「なりたい自分」といった目標としてきたことへの振り返りの機会を設けながら、進学・進級に向けた意欲付けを図ってまいります。

子どもたちにとって令和7年が、しっかりと努力を重ねられる、力強い成長に繋がる、そんな年になるように、ご家庭の皆様や地域の方々のご協力を得ながら、教職員一丸となって取り組んでまいります。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

校長 栗山 隆

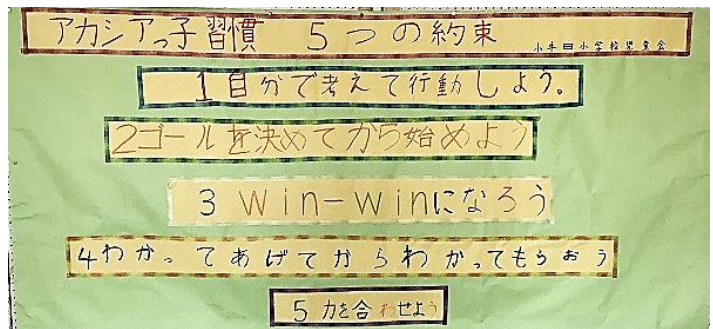


＜受賞の記録＞

○ 北部管内読書感想画コンクール 管内入選
SW さん SI さん MH さん OT さん

「アカシアっ子習慣」の取組

小牛田小学校のめざす児童像を児童が中心になって考え、「アカシアっ子習慣」を作り、今年度実施しています。11月に全校にアンケートを行い、今年1番頑張った取り組んだ習慣を聞いていました。



<「アカシアっ子習慣」で一番頑張ったこと（数字は人数）>

	自分で考えて行動しよう。	ゴールを決めてから始めよう。	WIN-WINになろう	わかってあげてからわかってもらおう	力を合わせよう
1年	7	1	0	0	7
2年	9	4	5	3	10
3年	10	4	10	2	7
4年	3	5	3	3	12
5年	5	2	2	4	10
6年	7	6	4	0	8

全体的に「力を合わせよう」「自分で考えて行動しよう」を意識して取り組んでいたようです。運動会や学習発表会で力を合わせて取り組んだ様子も思い出されます。



「わかってあげてから、わかってもらおう」については、自分と相手の心のつながりを作ることなので、時間がかかります。その理由は、相手は何を考えているのか分からないので、どのように言えば伝わるかを考える必要がお互いにあるからです。それが面倒なので、自分の事だけを話してしまったり、その時は自分の気持ちが楽になりますが、周りからは良いように思われず、それがまわりまわって自分に戻ってくる場合があります。心のつながりを作ることは難しいのです。

しかし、相手のことを分かってあげて自分のこともわかってもらうことができる関係ができると、「1人+1人」よりももっと大きな力を出すことができ、それで得た喜びも大きくなります。それが、学級全体に広がると学級がいい雰囲気になります。



相手を分かってあげて、自分も分かってもらうためには、自分のストレートな思いをちょっと柔らかくして伝えてあげることがポイントです。

デジタル時代になり、SNSをはじめ自分のことを一方的に主張することが簡単にできる時代になってから、相手のことを考えるのが面倒に感じている世の中の風潮が見られます。

「こう言ったらどう思われるだろうか」とか、「どう言ったら伝わるか」と考えて話すことは、大人の世界でも大切なことです。児童の皆さんには、「アカシアっ子の習慣」の取組を通して、自分の力+相手の力を合わせたときに発揮される大きな力と喜びをぜひ感じてほしいと思っています。